

第二八期中間

二〇一五年四月一日～九月三〇日

事業報告書

株式会社クレス



トップメッセージ

株主のみならずには日頃から格別のご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。中間期の業績とクレスコグループの更なる成長に向けた取組みについて、ご報告いたします。

当期の基本方針

“強み”を強化し、お客様へ貢献
「信頼と成長」を確かなものに

クレスコグループは2011年4月から5ヶ年計画で、次なるステージへの挑戦と成長をテーマとした「次世代クレスコ」を経営の中核に据えて、事業を展開しています。当期は「次世代クレスコ」の最終年度として、前年度に引き続き「信頼と成長」を重点テーマに掲げて、「次世代クレスコ」達成に向けた重点施策を具現化し、企業価値の向上を図っております。お客様や株主・投資家様を含めたステークホルダーのみなさまのご期待にしっかりとお応えできるように、信頼の獲得と社員・組織の成長を目指しています。

次世代クレスコ

1. 中堅IT企業トップリーグ入り
2. 現事業での卓越性
3. オリジナル製品およびサービスの開拓
4. ユニークな子会社群による複合IT企業
5. 営業拠点の広域化
6. 海外進出
7. 技術研究所設立
8. 女性が活躍できる職場
9. 人材育成のモデル企業
10. クレスコブランドの浸透

当中間期の経営環境

企業収益が総じて改善傾向にある中、好景感で推移し、IT投資も増加しました。大企業と中堅企業を中心に、戦略的なIT投資の勢いは衰えていません。セキュリティの見直しの他、第3のプラットフォーム(クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術)への投資に

関心が高まっており、特にクラウドとモビリティに関する領域は、モバイル端末(スマートフォンやタブレットPCなど)の普及を背景に、検討する企業が増えています。

クレスコグループでは、前期に引き続き、プロジェクト規模の拡大や引合いが増加し、当中間期の業績は、前年同期比で増収増益となりました。市場の変化に的確に対応すべく、事業および開発体制の強化と先端技術の研究に注力し、新規事業の創出と各種サービス・ソリューションの拡販などに努めました。

当期の重点施策

当期は、「人材の確保および育成」「開発および営業体制の増強」「品質管理の徹底」「第3のプラットフォーム関連ビジネスの拡充」「新技術への取組み」の5つを重点施策としています。

「人材の確保および育成」は、新卒および経験者採用の活動強化、協力会社との連携強化、技術専門職の育成プログラム実施を行っています。「開発および営業体制の増強」は、ニアショア開発(地方分散開発体制)の拡大、オフショア開発(海外開発体制)の推進、M&Aによる営業拠点の広域化および開発体制の強化を行っています。「品質管理の徹底」は、プロジェクト管理の強化、多段階レビューの実施、クレスコグループ各社に「開発標準体系」の展開を行っています。「第3のプラットフォーム関連ビジネスの拡充」は、ビジネスモデルの強化、近距離無線技術の普及に合わせたソリューションの開発、協業ビジネスの推進によるサービス種類の充実を行っています。「新技術への取組み」は、ニーズの調査とIoT(Internet of Things:モノのインターネット)ビジネスへの進出、先端技術を取込んだ共同研究の推進、研究成果の知財化による競争力強化を行っています。

当中間期の取組み

当社には「アプリケーション開発技術」「IT基盤システム構築技術」「組込み技術」の3つのコア技術があります。そして、長年の経験と実績に支えられた「技術力×開発力×品質」が当社の強みです。この3つのコア技術と強みを活かして、各事業部が既存の事業を支えています。一方、トレンド技術の導入や新たなビジネスモデルの創出には「技術研究所」と「先端技術事業部」が率先して取組み、グループシナジーを活用して、独自のサービス・ソリューションを展開しています。また、利益の源泉である「人」と「プロジェクト」に軸足を置いた施策にも継続的に取組み、収益性の向上を目指しています。

当中間期の主な取組み実績は、本書の「Topics」でご紹介していること他に、「子会社の統合(現「クレスコワイヤレス」)による近距離



代表取締役会長
岩崎 俊雄

代表取締役社長
根元 浩幸

無線通信関連事業の強化」「[「エス・アイ・サービス」の子会社化による基幹業務(ERP)パッケージシステム事業の強化]」「[「クレスコ九州」と連携したニアショア開発の拡大]」「[在ベトナム企業との協業によるオフショア開発の推進]」などがあります。

当社は、6月19日に開催した定時株主総会を経て、監査等委員会設置会社に移行しました。取締役会の監督機能を強化して、コーポレートガバナンスの充実を図り、より透明性の高い経営の実現と経営の機動性向上の両立を目指すためです。

当期の見通し

経済産業省が「攻めのIT経営」の促進を打ち出しており、国内企業のIT投資は、攻めの姿勢に転じた企業を中心に今後も活性化するでしょう。クラウドやモバイル端末を利活用したシステムへの移行、ITシステム基盤の統合と再構築、ビッグデータの分析と活用、ソーシャル・テクノロジーのビジネスへの活用など、第3のプラットフォーム分野は、ウェアラブルテクノロジーやIoTと相まって成長が加速し、2020年にはIT市場の4割を占めるといわれています。

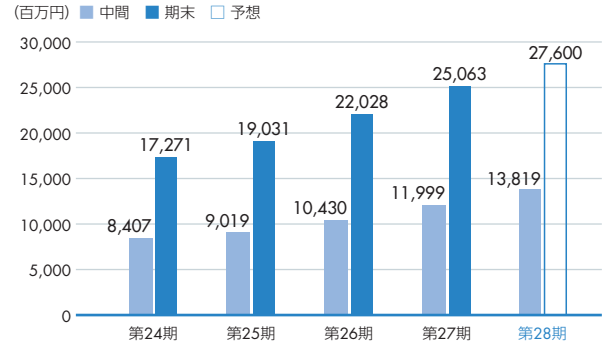
クレスコグループは、システムインテグレーションを含む受注ソフトウェア開発を事業の柱とし、各種サービス・ソリューションやITコンサルティングをご提供しています。各種サービスは、第3のプラットフォーム分野の成長の流れを概ね取込めるポジションにありますので、IoT基盤、Beacon(ビーコン)基盤、機械学習など、お客様の多様化するニーズに、スピーディに対応してまいります。また、グループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、お客様の環境変化をいち早く捉えてビジネスチャンスを支援する、新規性と利便性を備えたサービスを開発し、他社との協業ビジネスも含めた事業を展開し、社会に貢献してまいります。

決算のポイント

- ◆前年同相比、売上高15.2%増、営業利益24.6%増、経常利益30.5%増、純利益31.6%増の増収増益。
- ◆ソフトウェア開発事業は、全般的に受注が増加。特に金融関連の開発規模が継続拡大。また、インバウンド需要増加を背景に運輸、旅行関連の開発が好調。雇用環境改善を背景に、人材サービス関連の開発案件増加。
- ◆組込み型ソフトウェア開発事業は、国内メーカー向けのカーエレクトロニクス関連の開発案件が拡大。

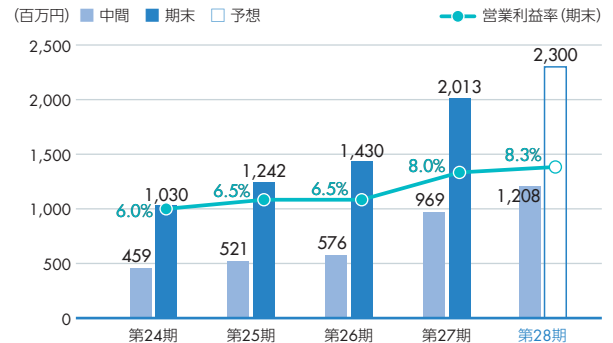
売上高

138億19百万円



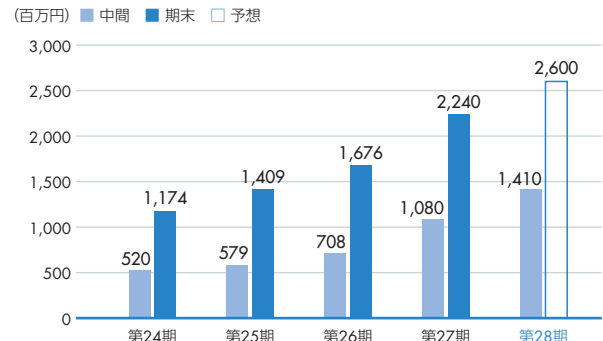
営業利益・営業利益率

12億8百万円



経常利益

14億10百万円

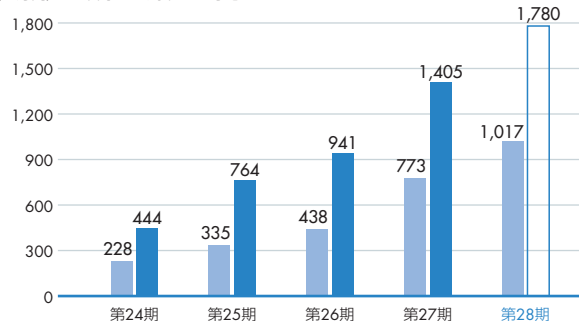


連結業績ハイライト

純利益

10億17百万円

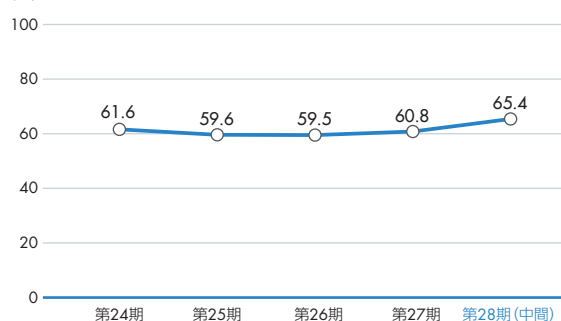
(百万円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想



自己資本比率

65.4%

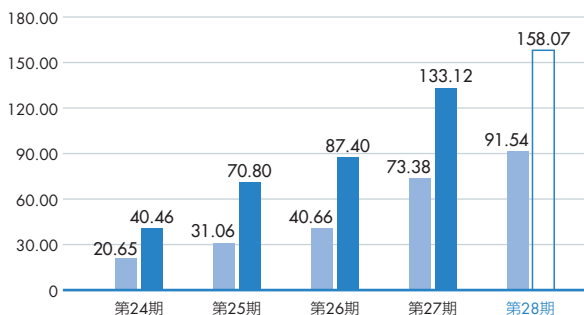
(%)



1株当たり純利益

91.54円

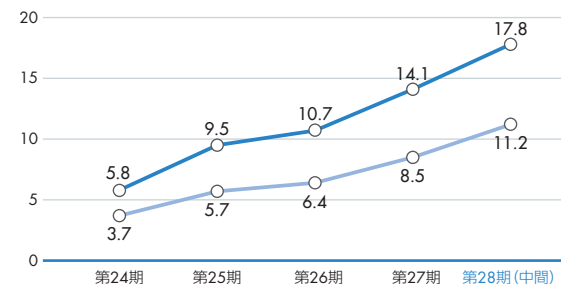
(円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想



ROA & ROE

ROA 11.2%
ROE 17.8%

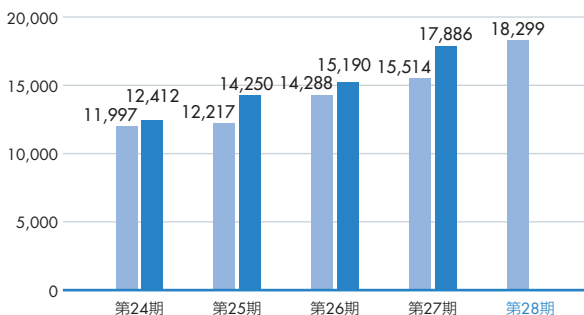
(%) ○ ROA ○ ROE



総資産

182億99百万円

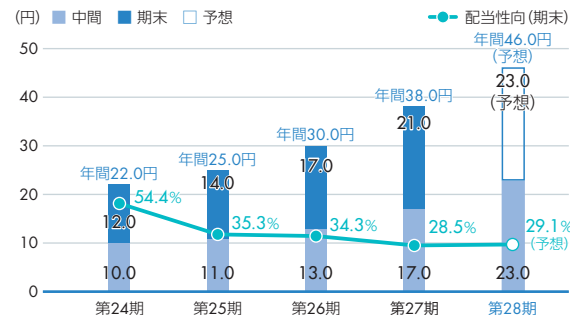
(百万円) ■ 中間 ■ 期末



1株配当金・配当性向

23.0円

(円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想

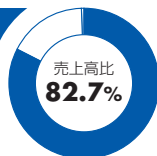


連結業績ハイライト

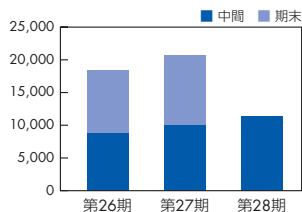
セグメント別概況

ソフトウェア開発

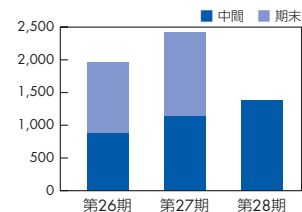
売上高 **114億29百万円**
 営業利益 **13億87百万円**



売上高 (百万円)

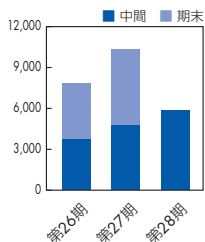


営業利益 (百万円)

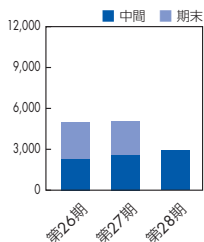


業種別売上高 (百万円)

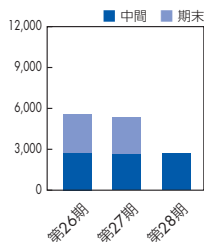
〈金融・保険〉



〈公共サービス〉

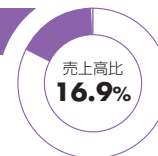


〈流通・その他〉

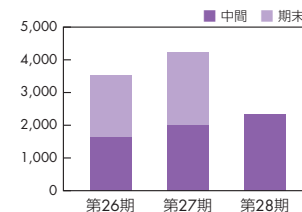


組み込み型ソフトウェア開発

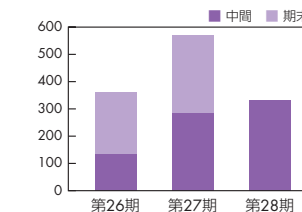
売上高 **23億40百万円**
 営業利益 **3億33百万円**



売上高 (百万円)

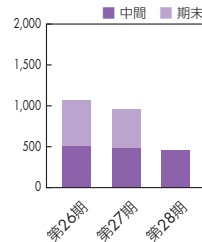


営業利益 (百万円)

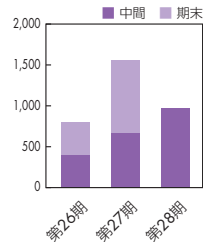


分野別売上高 (百万円)

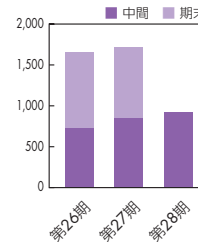
〈通信システム〉



〈カーエレクトロニクス〉

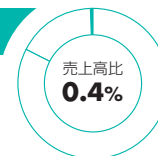


〈情報家電・その他〉

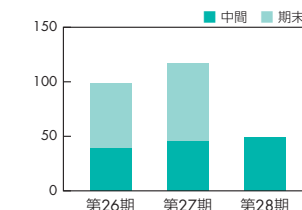


商品・製品販売

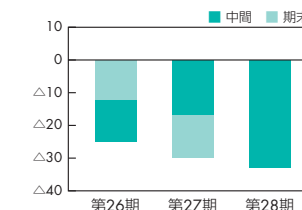
売上高 **49百万円**
 営業利益 **▲33百万円**



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



配当方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則当社の経常利益をもとに特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目的に、継続的に実現することを目指してまいります。

私たちはIT業界の「匠」です。



クレスコは、今まで「匠」として

アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組込み技術

の3つの領域にわたるコア技術をビジネスの軸としながら、

さまざまな仕組みづくりを手がけてまいりました。

特にITの基本部分を支えている

IT基盤システム構築技術や組込み技術においては、

創業以前とクレスコの創業年である1988年以降とを合わせると

40年近く。他社の追随を許さない技術の蓄積があります。

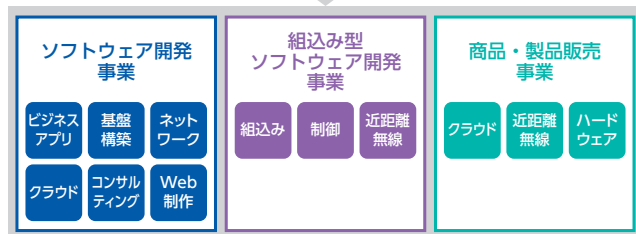
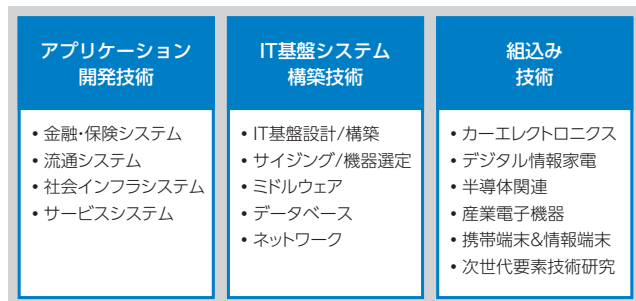
品質に対するこだわり。そして、現場尊重主義。

「匠」の精神で、お客様の信頼に応え続けてまいります。

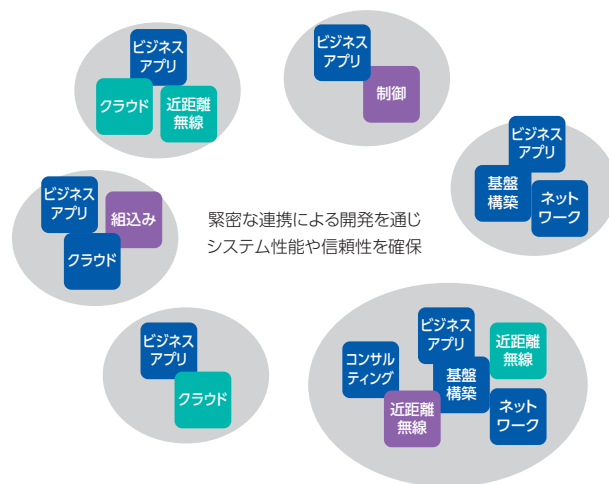
社名の由来

企業活動の成長が世界の人々の幸福に可能な限り最大の貢献をすること、そして、そこに働く人々が共に喜びと誇りをもち、自己の能力を最高に発揮できることが企業の使命であると考え、ラテン語で「成長する」という意味を持つ「CRESCO」を社名としております。

クレスコの強み①経験に支えられた3つのコア技術



クレスコの強み②コラボレーションによる事業の創造



Topics

IoTを実現するセンサープラットフォーム [BeaconBridge]

あらゆる「モノ」がインターネットにつながるIoT (Internet of Things) を、iBeacon (アイビーコン) に代表されるBLE (Bluetooth Low Energy: 省電力のBluetooth) 技術を用いた小型の近距離無線機器であるBeacon (ビーコン) で実現するために、基盤提供からアプリケーション開発・運用までを幅広くサポートするセンサープラットフォーム「BeaconBridge (ビーコンブリッジ)」を開発いたしました。

Beaconは、数センチから数十メートルの範囲に電波を発信します。Beaconの機能を活用することで、GPS (全地球測位システム) では困難な屋内での位置情報の取得や、Beaconの設置場所に関連したコンテンツをユーザーに配信することが可能になります。特にBeaconとスマートフォンアプリを合わせたシステムは、業種/業態を問わず、様々なシーンでの活用が期待されています。

[BeaconBridge]により、システム開発における先端技術採用のリスクやコストを軽減し、人・モノ・機器をクラウド上で接続することで、新たなビジネス価値を生むことができます。今後、[BeaconBridge]を活用した様々なサービス・ソリューションをご提供してまいります。



シンガポールでIRロードショーを実施

クレスコグループが保有する技術・品質の高さ・サービスの魅力の世界にアピールするために、昨年からドイツ銀行グループ主催の海外の投資家様向けIRイベントに参加しております。2015年6月25日～26日にシンガポールでIRロードショーを行い、代表取締役社長 根元浩幸 と 取締役財務経理部長 杉山和男が、機関投資家様に会社説明を行いました。今後も引き続き、国内と海外の両方の投資家様に当社の魅力を理解していただけるよう、IR活動に取り組んでまいります。

自律分散型P2Pネットワークを活用した IoT基盤の開発・実験をSkeed社と推進

株式会社Skeedが提供する自律分散型P2Pネットワークを「BeaconBridge」に活用し、広域ネットワークに接続できていない環境や、安定的な接続が保証できない環境を想定した、次世代のIoT基盤の共同開発に着手いたしました。

複雑なネットワーク構築を行わずに無線通信のみで情報が伝達でき、通信品質が不安定な環境でも、近距離無線通信機能に特化したセンサー装置から、各種端末に自在に情報を送信したり、センサー装置から収集した情報を伝達できるメリットを想定しております。今後、複数の実証実験を通して、様々な産業に迅速かつ安定して活用できるように、商用化を図ってまいります。

当社は、2015年3月31日にSkeed社の第三者割当増資を引受け、高速クラウド構築支援サービス「Intelligent Folder Express (インテリジェントフォルダエクスプレス)」のご提供や、IoT事業の技術基盤の確立を目指した共同研究・実証実験を行っております。

モバイルポータル事業に「クレスコ北陸」が参入

Web上で、誰でも&簡単に&直ぐに&低コストでオリジナルのスマートフォン向けアプリケーションを作成できるクラウドサービス「misterPARK (ミスターパーク)」の販売を、子会社「クレスコ北陸」が開始いたしました。

「misterPARK」は、アップゾーン株式会社様が開発提供している、スマートフォン向けアプリケーション作成プラットフォームです。基本機能であるアプリケーション作成の他、ネットショップや実店舗でのビジネスシーンに特化した「モバイルデバイス管理機能」「eコマース機能」「クーポン発行・配布機能」「プッシュ機能」など、オプションサービスも充実しています。

「クレスコ北陸」は販売開始を契機に、アプリケーションやアイコン作成代行、システムの運用代行など「misterPARK」を中核に置いた多面的なモバイルポータル事業を展開し、オリジナルのソリューションを組み合わせることで、サービス事業の拡大を目指してまいります。



電池持続時間を大幅に長寿化した 単三電池2本型のビーコンを共同開発

子会社「クレスコ ワイヤレス」は、丸紅情報システムズ株式会社様と共同で開発した、単三電池2本型のBeaconデバイス「RapiNAVI Air2(ラピナビ エア ツー)」の販売を開始いたしました。「RapiNAVI Air2」は、BLE技術を用いた小型の近距離無線機器であるBeaconデバイスです。従来製品と比較して電池寿命が大幅に向上しました。iBeaconの規格「100ミリ秒に1回の間隔で信号を発信し続けること」で、単三乾電池1本で約1年間にわたり稼働し続けます。ショッピングモールや駅構内などにおける広告配信や、人やモノの行動分析分野でBeacon活用の有効性を実証実験で確認されている丸紅情報システムズ社様と2社で、今後1年間に2億円を売上上げる目標です。



基幹業務(ERP)パッケージシステムとのデータ連携ツール [ConnectPlus for CONCUR Expense]を開発

子会社「クレスコ・イー・ソリューション」と「エス・アイ・サービス」は、SAPジャパン株式会社様のERPパッケージシステム「SAP®ERP」と株式会社コンカー様の経費精算クラウドサービスの「Concur Expense(コンカーエクスペンス)」をデータ連携するツール「ConnectPlus for CONCUR Expense(コネクトプラス フォー コンカーエクスペンス)」を共同で開発し、販売を開始いたしました。

「ConnectPlus for CONCUR Expense」は、「SAP®ERP」と、「Concur Expense」とのデータ連携を、プログラミングを行わずに初期設定作業だけで可能にする専用アダプターです。開発を行わないため、導入期間の短縮と導入コストの削減に繋がります。今後も、「クレスコ・イー・ソリューション」と「エス・アイ・サービス」は連携を密にし、お客様の満足度向上とビジネスパフォーマンスの向上に貢献してまいります。



「IBM Watsonエコシステムプログラム」の 初期エコシステムパートナーに選定

株式会社ソフトバンク様と日本アイ・ビー・エム株式会社様と共同で、人工知能「Watson(ワトソン)」の日本語版の開発と日本市場導入を進めるためのプログラム「IBM Watsonエコシステムプログラム」のパートナー正式募集に先駆けて選定した、初期システムパートナー(全9社)に、当社が選ばれました。「Watson」は、クラウド上で、大規模なデータを分析し、人と同じように自然言語を理解して学習し、人と自然な対話を通じて、人の意思決定を支援する、コグニティブ・コンピューティング・システムです。過去の会話から価値や知識を継続して学習します。

「IBM Watsonエコシステムプログラム」は、「Watson」対応アプリケーションの開発/販売/サービスの提供を行うことができるパートナーに、開発環境の提供・開発支援トレーニング・技術問合せに対応するプログラムです。

当社は、ソフトバンク社様が販売する「Pepper(ペッパー)」をはじめとするロボットや、モバイルやパソコンに対応する様々なアプリケーション開発を通じ、「Watson」によるビジネスの変革を支援してまいります。

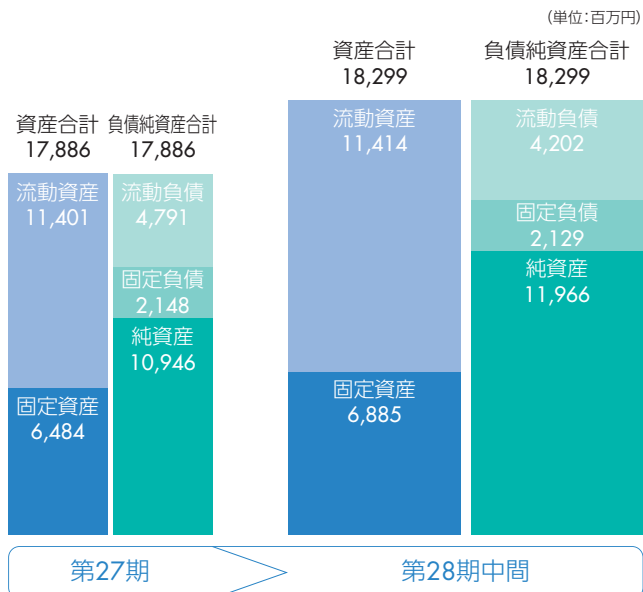
関西地方のビジネスを強化

Web制作とソフトウェア開発を主力事業とする「メディア・マジック株式会社」が、2015年10月1日付でクレスコグループに子会社として加わりました。デザイン主導のアーティスト集団ではなく、お客様と同じ視点に立ち、お客様の声にしっかりと耳を傾けて、お客様にとっての「最適なカタチ」を創ることをモットーとしております。

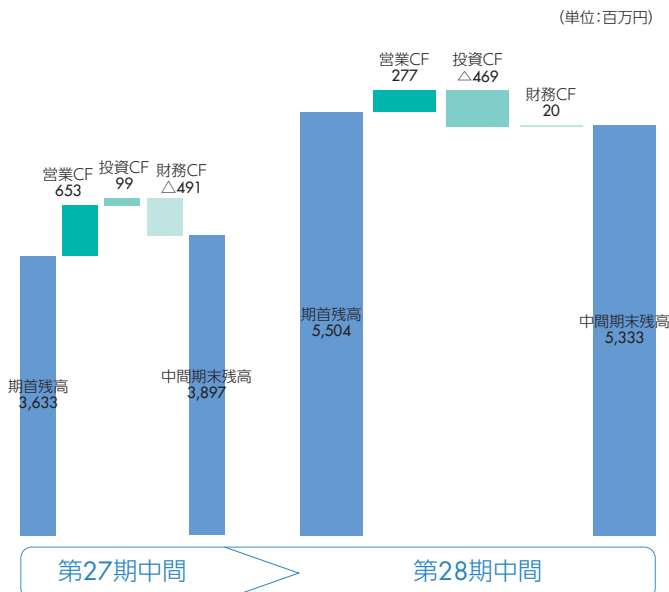
これまでクレスコグループの関西でのビジネスは、子会社「アイオス」の関西営業所を拠点に展開してまいりましたが、「メディア・マジック」が加わることで、関西でのさらなるビジネス拡大にチャレンジしてまいります。



■ 貸借対照表の概要



■ キャッシュ・フロー計算書の概要



■ 流動資産

12億円
(前年度末比)

現金および預金が1億70百万円減少したものの、有価証券が69百万円、仕掛品が88百万円、前払費用が48百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて12百万円増加し、114億14百万円となりました。

■ 固定資産

4億円
(前年度末比)

投資有価証券が3億44百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて4億円増加し、68億85百万円となりました。

■ 流動負債

5億88百万円
(前年度末比)

未払消費税等が3億70百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて5億88百万円減少し、42億2百万円となりました。

■ 固定負債

19百万円
(前年度末比)

退職給付に係る負債が1億6百万円、長期未払金が1億10百万円増加したものの、長期借入金が30百万円、役員退職慰労引当金が2億8百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて19百万円減少し、21億29百万円となりました。

■ 純資産合計

10億20百万円
(前年度末比)

その他有価証券評価差額金が1億73百万円、非支配株主持分が63百万円減少したものの、自己株式が1億73百万円減少し、資本剰余金が2億93百万円、利益剰余金が7億85百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて10億20百万円増加し、119億66百万円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払額が5億43百万円、未払消費税等の減少が3億69百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が15億52百万円、仕入債務の増加が1億28百万円あったことにより、2億77百万円の収入(前年同期6億53百万円の収入)となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券の売却による収入が19億2百万円、投資有価証券の売却による収入が4億33百万円あったものの、有価証券の取得による支出が18億83百万円、投資有価証券の取得による支出が12億1百万円あったことにより、4億69百万円の支出(前年同期99百万円の収入)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

新株予約権の行使による自己株式の処分による収入が4億86百万円あったものの、配当金の支払額が2億30百万円、長期借入金の返済による支出が1億34百万円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出が90百万円あったことにより、20百万円の収入(前年同期4億91百万円の支出)となりました。



ホームページのご案内

最新のIR情報や
財務データ、決算関連資料を
掲載しております。
ぜひ、ご利用ください。

<http://www.cresco.co.jp/>

取締役



代表取締役会長
岩崎 俊雄 Toshio Iwasaki
1940年11月30日生



取締役副会長
水谷 浩二 Kohji Mizuya
1947年7月6日生



代表取締役社長
根元 浩幸 Hiroyuki Nemoto
1960年2月12日生



常務取締役
コーポレート管理本部長
丹羽 蔵王 Kurao Niwa
1955年11月13日生



常務取締役
事業統括本部長
山元 高司 Takashi Yamamoto
1960年10月11日生



取締役
財務経理部長
杉山 和男 Kazuo Sugiyama
1964年9月1日生



取締役
事業統括本部副本部長
富永 宏 Hiroshi Tominaga
1967年1月9日生



取締役
事業統括本部副本部長
菅原 千尋 Chihiro Sugawara
1958年9月27日生



取締役(非常勤)
クレスコ・イー・ソリューション(株) 代表取締役社長
(株)エス・アイ・サービス 代表取締役社長
谷口 義恵 Yoshie Taniguchi
1953年10月16日生



取締役(非常勤)
(株)クリエイティブジャパン 代表取締役社長
熊澤 修一 Shuuichi Kumazawa
1956年9月30日生

監査等委員



取締役
常勤監査等委員
波多腰 茂 Shigeru Hatakoshi
1951年11月17日生



社外取締役
監査等委員
白井 義真 Yoshimasa Usui
1949年2月11日生



社外取締役
監査等委員
井手 正介 Masasuke Ide
1942年6月28日生

私たちは「メインITソリューションパートナーを目指す」こと、

「ワンストップ・ソリューションを提供する」ことの

2つをビジョンとして掲げ、

「技術」と「品質」にこだわる **匠** の精神で

お客様の信頼に応え続けてまいります。

グループ各社の連携を密に、その総合力を発揮して、さらなるビジネスの拡大にチャレンジしてまいります。

1 株式会社クレスコ 本社
2 北海道開発センター
3 長岡開発センター

事業内容: ビジネスアプリ, 基盤構築, クラウド, コンサルティング, 組込み, 近距離無線, クラウド

連結子会社

4 クレスコ・イー・ソリューション株式会社

事業内容: ビジネスアプリ, クラウド, コンサルティング

5 クレスコ ワイヤレス株式会社

事業内容: 近距離無線, 近距離無線

6 株式会社アイオス 本社
7 関西営業所

事業内容: ビジネスアプリ, 基盤構築

8 クレスコ九州株式会社

事業内容: ビジネスアプリ

9 クレスコ北陸株式会社

事業内容: ビジネスアプリ, ハードウェア

10 科礼斯軟件(上海)有限公司

事業内容: 組込み

11 株式会社シーズリー

事業内容: 組込み, 制御

12 株式会社クリエイティブジャパン

事業内容: 基盤構築, ネットワーク

13 株式会社エス・アイ・サービス

事業内容: ビジネスアプリ, コンサルティング

14 メディア・マジック株式会社

事業内容: Web制作, ビジネスアプリ, 基盤構築, コンサルティング

関連会社

15 株式会社ウェイン

事業内容: ビジネスアプリ, コンサルティング

16 ビュルガーコンサルティング株式会社

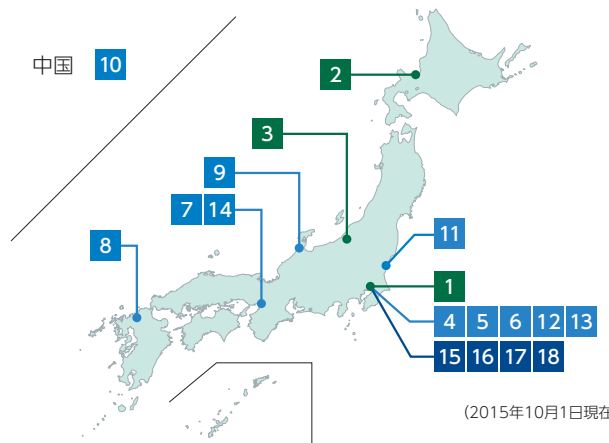
事業内容: コンサルティング

17 株式会社エル・ティー・エス

事業内容: コンサルティング

18 株式会社イー・アイ・エム スタッフ

事業内容: ビジネスアプリ, 基盤構築



株式の状況

(2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	11,260,928株
	(自己株式739,072株を除く)
株主数	2,731名

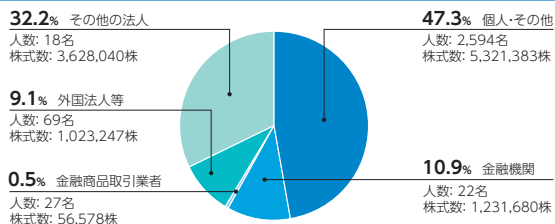
大株主

(2015年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	34,396	30.66
浦崎 雅博	11,818	10.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,982	5.33
佐藤 和弘	5,840	5.20
クレスコ従業員持株会	4,972	4.43
田島 裕之	4,448	3.96
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS	3,600	3.20
岩崎 俊雄	3,021	2.69
波多腰 茂	1,261	1.12
ユニオンツール株式会社	1,198	1.06

所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2015年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	中間:9月30日 期末:3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 ☎ 0120-232-711 (通話料無料) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞社に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



～ システムで未来を創る ～

会社概要

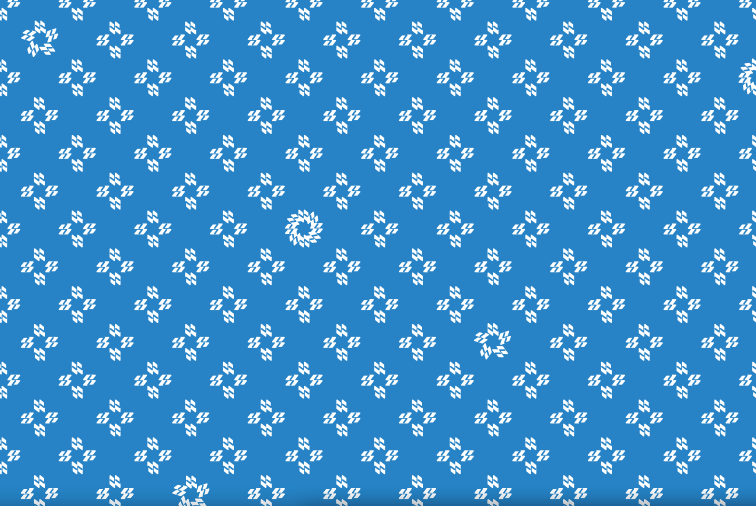
商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	25億1,487万5,803円
従業員数	1,009名
所在地	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本社 〒108-6026 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 25階～27階 TEL : 03-5769-8011 FAX : 03-5769-8019 ■ 北海道開発センター 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西3-1 札幌北三条ビル 2階、11階 TEL : 011-200-5550 FAX : 011-200-5665 ■ 長岡開発センター 〒940-0071 新潟県長岡市表町1-11-1 長岡フロントビル 4階 TEL : 0258-30-0370 FAX : 0258-33-1771
事業内容	<p>情報処理システムに関する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務 ■ 設計、開発業務 ■ 運用管理、保守業務 ■ 調査、分析、評価および技術支援業務

(2015年10月1日現在)

IRのお問合せ 経営企画室

Mail: ir@cresco.co.jp
TEL: 03-5769-8058





東京証券取引所 市場第一部
証券コード 四六七四

